

金子町政 4期目

まじめに まっすぐ まちづくり



邑楽町長選挙開票結果

12月1日に投票が行われた町長選挙の当日有権者数は、2万1,958人。投票率は51.91%で、前回(平成27年11月)町長選挙の投票率を4.27ポイント下回りました。開票は、午後8時50分から町役場大会議室で行われ、午後9時22分に結果が確定しました。結果は次のとおりです。

◆得票順、敬称略

金子正一 7,648票

ホンマ恵治 3,587票

(無効票163票)

令和元年12月1日、任期満了に伴う邑楽町長選挙の投票が町内12カ所の投票所で行われました。

同日、役場大会議室で即日開票され、

金子正一さんの4期目の当選が決まりました。

そして、12月19日に初登庁し金子町政の4期目がスタート。

これまで8人の歴代町長の中で、4期当選したのは、金子正一町長が初めてとなります。金子町長は3期目までの12年間をどう振り返り、4期目の行政運営をどのように図るのか。

その想いは、次のページのインタビューをご覧ください。



12月2日、町選挙管理委員会の笠原一夫委員長から当選証書が手渡されました。



12月19日、たくさんの町民や職員が出迎える中、朝日に照らされて初登庁する金子正一町長。



―当選の結果について―

4期目の町政の舵取りを担うこととなりました。誠に光栄に感じているとともに、その責任の重大さをこれまで以上に痛感し、町民の皆さまのご期待にお応えしなければという、強い使命感で身の引き締まる思いです。

―これまでを振り返って―

行く先々で皆さまとお話するたび、まちづくりに関心を持つ方が増えているのを実感します。これは、人口減少社会や少子高齢化の進展、地域コミュニティの希薄化、防災対策など、私たちが取り巻く環境が大きく変化しているためではないかと考えます。

町のリーダーを担った3期12年間の全てを糧にするとともに、これまで培った国や県とのパイプを生かした町政運営に努めていきたいと思っています。

―前人未踏の4期目へ―

行政経営は、継続性が大切だと自覚しています。今までの施策の結果について、良かったことについては継続して実施していきます。

その上で、やはり柱になるのは平成28年度を初年度とする「邑楽町第六次総合計画」です。それに、町独自の資源を活用しながら人口減少に歯止めをかける施策を盛り込み策定した「邑楽町総合戦略」をベースに、若者の定住促進や交流人口の拡大などに向けた取り組みを引き続き推進していきます。

中でも防災・減災の推進、教育・文化の向上、少子・高齢化対策、福祉の充実などは重要かつ継続的な課題です。

―具体的な施策は―

ここでは、自治体が特に取り組むべき、防災、教育、福祉の3つを挙げます。

経験に学び、防災意識を

防災面では、自らの命は自

誠実

金子正一町長
―座右の銘―



邑楽町が
大好きだから

【Profile】かねこまさかず

▶昭和17年12月21日生まれ。77歳。県立大泉高等学校卒業後、邑楽町役場入職。福祉課長、町教育委員会学校教育課長などを歴任。平成15年5月から邑楽町議会議員。
▶平成19年12月から邑楽町長に。邑楽町長4選は歴代町長で初。▶座右の銘は「誠実」。趣味はウォーキング、読書、ラジオ体操、さわやか邑楽健康体操。

12月19日の初登庁後、役場職員を前に訓示。「職員の一一人一人が自ら積極的に地域へ出向き、地域の課題を見つけ、「町民のために何が出来るか」を考えて欲しい。そして、その解決に向けては、一人一人の職員ではなく、役場が横断的な組織力を発揮して取り組んで欲しい」と話しました。



課題を関係各所で検証し、「自助・共助・公助」それぞれの力の向上による「防災・減災」に向けたまちづくりを進めます。

―産み育てたいまちへ全速力―

教育面では、今後のまちづくりを担う子どもたちを育み、若い世代から住みたいと思われ町にしていくために、町独自の福祉医療制度や高校・大学への奨学金制度を維持しつつ、新たな子育て支

援施策の取り組みとして、小中学生の給食費の無料化に向けて検討していきます。

また、平成30年9月にオープンした中央公民館は、年間約11万人の利用者を数え、文化芸術の拠点として「文化と教育のまち・おうら」を町内外へ発信しています。今後、さらに利用価値を高めることが、町民の文化活動のさらなる充実を図ることになると考えています。

―お互いさまの取り組み支援―

福祉面では、町民の皆さまが生きがいを感じながら、日々の暮らしをいきいきと楽しく過ごすためには、何といたっても健康が一番です。そのため、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の具体的な事業を展開していきます。

また、町民の皆さまが主体となって進めているお互いさま活動「邑助けネットワーク」は、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指した取

り組みです。町としても積極的に支援していく考えです。

―最後に―

私は邑楽で生まれ、邑楽で育ちました。私は、政治の仕事をするのではなく、まちづくりの仕事をしているという気持ちで働いています。町長の仕事は、大変なこともありませんが、やりがいがあり楽しい仕事です。年齢を心配される声もありますが、おかげさまで元気です。何より気持ちよく充実しています。大好きな邑楽町のために働ける。こんなに幸せなことはありません。

4期目をお任せいただけるようになった今、改めて議会や町民の皆さまと共に話し合いをしながら、将来を見据え、新しい考え方についても積極的に取り入れていく方針です。そして、邑楽町を将来も持続可能な町にしていきたいと思っています。

町民の皆さまには、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。4期目就任のあいさついたします。